
「極細径大腸内視鏡を用いた大腸内視鏡検査の有用性の検討」

に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの大腸内視鏡検査レポートと診療録のデータを用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、病院 IRB 委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2018年1月1日から2023年8月31日の期間に埼玉医科大学病院を受診し、極細径スコープを用いて大腸内視鏡検査を受けた20歳以上の患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

大腸内視鏡検査は大腸の屈曲や過長、癒着などにより挿入時に疼痛を伴うことも多く、検査の受容性に問題がみられます。特にやせていたり、小柄な女性患者や腹部手術歴による腸管癒着をともなう患者さん、S状結腸多発憩室症による腸管狭窄・癒着を伴う患者さんなどでは挿入に難渋し、疼痛を伴うこともしばしばみられます。通常径のスコープでは挿入困難なため、極細径スコープを用いることにより挿入が可能となることも多くみられます。今回、極細径スコープを用いた大腸内視鏡検査について患者さんの背景因子と内視鏡スコープの深部挿入性について検討します。

3. 研究期間

病院長の許可後 ~ 2025年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2023年11月1日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

極細径スコープを用いて大腸内視鏡検査を受けた患者さんの年齢、性別、身長、体重、腹部手術歴、S状結腸多発憩室の有無と、今回の大腸内視鏡検査で使用したスコープの種類、鎮静の有無、盲腸へ到達の有無、盲腸までの挿入時間と、以前に大腸内視鏡検査施行の有無とその時使用したスコープの種類、盲腸へ到達の有無、盲腸挿入時間、疼痛の程度のデータを用います。この研究で得

られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院において、研究責任者である今枝博之が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

極細径スコープを用いて大腸内視鏡検査を受けた患者さんの大腸内視鏡検査を実施した際の検査データおよび診療記録のデータを用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・ 埼玉医科大学病院 消化管内科 今枝博之（研究責任者）
- ・ 埼玉医科大学病院 総合診療内科 山岡稔
- ・ 埼玉医科大学病院 総合診療内科 松本悠
- ・ 埼玉医科大学病院 消化管内科 宮口和也
- ・ 埼玉医科大学病院 総合診療内科 塩味理恵
- ・ 埼玉医科大学病院 消化管内科 大庫秀樹
- ・ 埼玉医科大学病院 消化管内科 都築義和
- ・ 埼玉医科大学病院 総合診療内科 中元秀友
- ・ 埼玉医科大学病院 地域医療科 廣岡伸隆

4. 試料・情報の管理責任者

- ・ 埼玉医科大学病院 病院長 篠塚 望

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 消化管内科 今枝博之

住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話：049-276-1829（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：極細径大腸内視鏡を用いた大腸内視鏡検査の有用性の検討

○研究責任者：埼玉医科大学病院 消化管内科 今枝博之